

霊仙山麓の山岳寺院 松尾寺

米原町上丹生

神護景雲三年（七六九）に、高僧宣教が霊仙山と周辺に建立した七ヶ別院のひとつであり、三修の弟子・松尾童子が興隆したと伝えられる松尾寺は、松尾山の東南山腹にあります。戦国時代に焼失したものの、江戸時代には、本坊の他に五〇余りの坊院がありました。しかし昭和三〇年代に、法灯が醒井の松尾寺政所に移され、山中には元禄年間に再建された本堂のみ残されていますが、昭和五六年の豪雪で倒壊してしまいました。



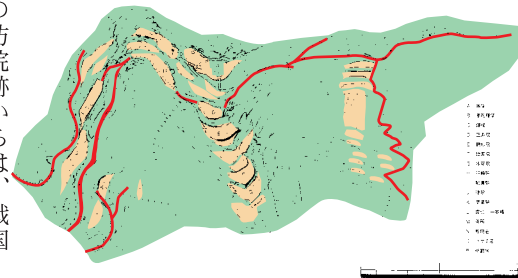
発掘調査状況



町教委がおこなった測量調査では、尾根上とその側面に大小六〇近くの削平地が確認されています。

■松尾寺遺跡の発掘

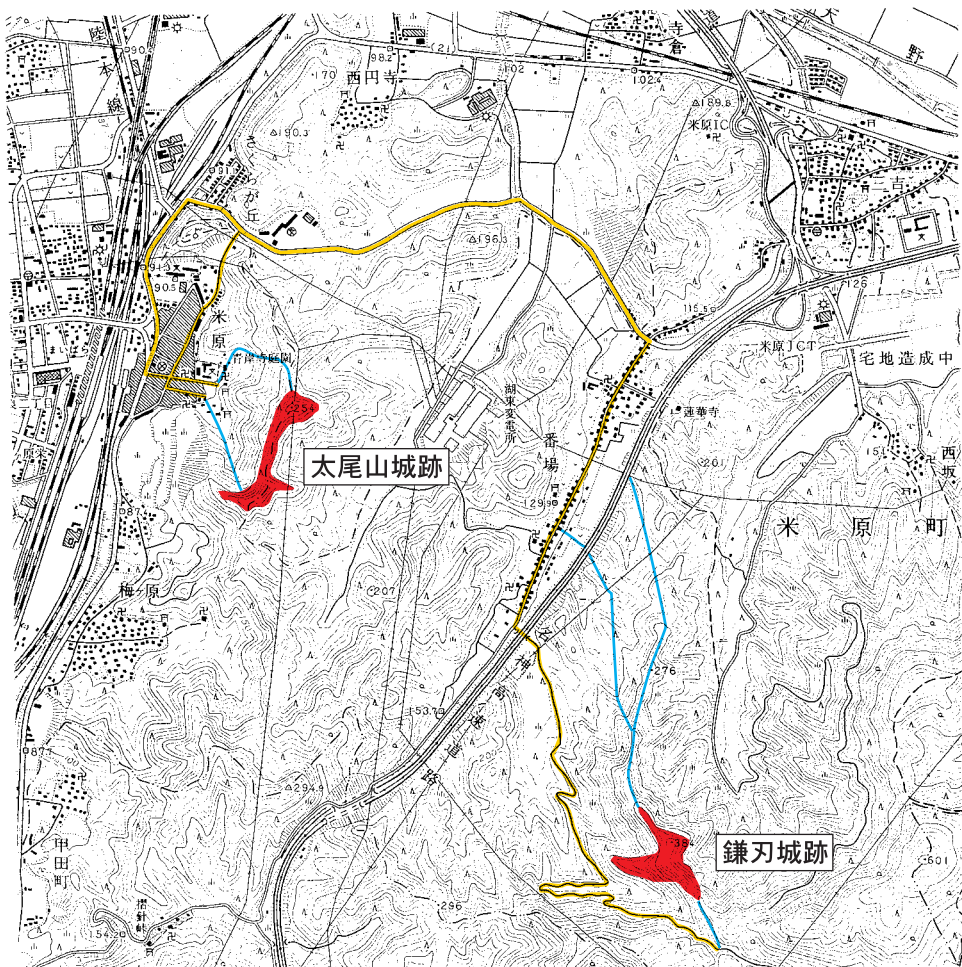
調査では、本堂跡周辺の整地土層から、九世紀後半から一〇世紀中頃にかけての土器片が出土しました。これは、記録に残る松尾童子による堂宇の整備時期と一致しています。



また、尾根筋の坊院跡からは、戦国時代以降の遺構が検出されていることから、このころ周辺の坊院が形成されたと考えられています。

■石造九重の塔【重文】

松尾寺の境内にあります。総高四八五cm、刻銘から文永七年（一二七〇）



鎌刃城・太尾山城マップ

に建立されたことがわかります。基礎側面の格狭間の両側に、宝瓶にさした一對の供花が彫り出された文様に、古い様式を見ることができます。



弥高寺から移転 竜宝院

山東町柏原

もと、伊吹山弥高寺の一坊で、岡島山右享坊と名乗っていました。天正年間に兵火で焼失後、文禄四年（一五九五）に現在地に移り、竜宝院を名乗りました。いまは小堂だけがあり、不動明王が安置されています。明治九年に、焼山の山上に八大龍王石という修行の行場を設けています。